

第 34 期新潟市社会教育委員会議 会議概要

第 4 回社会教育委員会議	
開催日時	令和 3 年 3 月 4 日 (木) 午後 3 時～午後 5 時
会 場	クロスパルにいがた 5 階 交流ホール 2
出席者	<p>【社会教育委員】 岡 昌子、小川 崇、角野 仁美、木村 いほ子、雲尾 周、笹川 博人、出頭 久美子、田中 一昭、田中 宏和、山田 久美子、渡邊 彩 計 11 名 *敬称略</p> <p>【事務局】 地域教育推進課長、中央公民館長、中央図書館長、生涯学習センター所長、生涯学習センター所長補佐、生涯学習センター職員 3 名 計 8 名</p>
内 容	<p>1 開会</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 第 62 回全国社会教育研究大会新潟大会 参加報告 ○報告資料 1 に基づき、参加委員が報告を行いました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>(2) 令和 2 年度関東甲信越静社会教育委員連絡協議会 第 2 回理事会(書面開催)報告 ○報告資料 2 に基づき雲尾議長が報告を行いました。 【主な質問・意見等】 ・質問や意見はありませんでした。</p> <p>(3) 令和 2 年度新潟市成人式開催報告 ○報告資料 3 に基づき、令和 3 年 1 月 10 日に開催された令和 2 年度新潟市成人式について地域教育推進課から報告を行いました。その後、参加された委員が感想を述べました。 【主な感想・意見等】 ・万代太鼓が一演奏で終わるなど急ぎ足で通り過ぎた感覚があった。いろいろと工夫して時間短縮されたのだろう。退出時にロープを張り、区画ごとに退出する形など相当工夫をされていると感じた。 ・会場では新成人が皆マスクをし、騒ぐこともなく、実行委員の「この後の懇親会、飲み会は、今日は我慢しましょう」との呼びかけが伝わったのではないかな。 ・例年は前の方に座る新成人は少ないが、今回、前の方に座り、神妙に式に参加している姿が見られ印象的だった。 ・司会、発表された方が立派であった。結果論だが、とても良かったのではないかなと思う。</p> <p>3 協議事項</p> <p>(1) 令和 3 年度社会教育関係団体補助金について ○協議資料 1 に基づき、生涯学習センター所長が令和 3 年度社会教育関係団体補助金について説明を行いました。 【主な質問・意見等】 ・文化協会補助金について、地域により金額に差があるのは、実施事業数によるものかな。</p>

<p>内 容</p>	<p>→合併前からの補助金であり、活動団体の数が違うため、補助金の額に開きがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新潟市青少年育成協議会補助金について、公民館から育成協を立ち上げたいという相談を受けた。地域教育推進課には、他地域の立ち上げの情報があると思うので、支援していただきたい。</li> <li>→承知しました。</li> <li>・青少年育成協議会補助金は 5 万円ほどと思うが、独自に住民から何十円という世帯割りで納めてもらい、何百万円という予算でいろいろな育成事業をしている地区もあり、中学校独自で行っているところもあると思うが、独自会計を持つ育成協の比率はどのくらいか。</li> <li>→中学校区ごとが前提であるが、そうでない地域もある。各育成協団体が地域からどのような補助を受けているかの詳細は把握していない。</li> </ul> <p>(2) 第 34 期社会教育委員会議の研究テーマについて</p> <p>○協議資料 2-1、2-2 に基づき、第 34 期の研究テーマとスケジュールについて、生涯学習センター所長が説明を行いました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップは、社会教育委員が地元の図書館協議委員、あるいは公民館審議委員に声をかけて参加を願うのか。</li> <li>→事務局から案内文書を出す予定である。他に声掛けしたらよい団体などあれば提案していただきたい。委員の参加は全員ではなく都合のつく方になる。</li> </ul> <p>○第 34 期の研究テーマに沿った事例研究について、事務局から説明を行いました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例の情報として、今年度から西区の日本文理高校の総合的な授業の支援にみらいず works として入り、地域でできそうな企画づくりをした。来年度、地域で実際に各高校生がやってみようと企画している。その中に、茶の間の運営をするグループがあったり、子ども食堂に関わって臨時子ども食堂を開催するグループがあったりする。学校教育で企画したことを社会教育の現場で高校生たちが実践するというホットな姿を調査、ヒアリングできたらいいと思う。</li> <li>・日本文理高校生は 3 月 13 日に内野小学校で子ども食堂の臨時版を、3 月 14 日には内野で茶の間を開いている方とコラボして臨時茶の間 1 回目を開く予定であり、初めてのアクションとなる。</li> <li>・南区の白根高校生にも来年度また同様に探究の授業の支援をするが、CC（コミュニティ・コーディネーター）養成講座を管轄している白根公民館の担当者と、来年の探究の事業と CC 講座の中身をもう少し融合させて実施しているかと話をしている。学校教育と社会教育の接続のようなところを西区と南区で追えたら面白いのかなと思う。</li> <li>・3 月 17 日にコミュニティ・コーディネーター養成講座の発表会を開催する。例年は CC 講座の発表会のみで行っていたが今年は趣旨を広げ、CC 講座の発表会に、探究の授業の発表会も加え、白根高校生が地域にどう関わり、地域がどのように変わっていったかということを両方の視点から見られるようなイベントとなっている。学校や地域、社会教育が今後、どのように関わっていけるかを考えるきっかけにしたいと企画したので、委員の皆さまにも来ていただきたい。</li> <li>・東区の自治協議会で中学生向けのリーフレットを作成しており、茶の間、子</li> </ul>
------------	--

	<p>ども食堂を載せる予定だが、今は活動自粛で再開の目途が立っていないという状況である。やはり動き出しているところを取り上げていけばいいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白根子行進曲は一回で終わりか、今後も継続して考えていかれるか。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→昨年前に行ったが、今年も関連したイベントが先月行われた。小規模なワークショップのようなイベントで、ゲストハウスの中で、白根子のパンのようなものを高校生が開発して販売した。実行委員は、白根子というところで、今後も企画、活動を続けていきたいと思っている。</li> </ul> </li> <li>・どのような内容をヒアリングすることになるか。コロナ禍の影響から少しずつ活動を再開し、どのように推移したのかということか、それとは関係なく現在の活動について聴き取るということか。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→33 期の次世代育成を基点に考え、その中にコロナ禍も入ってくるかもしれないが、どちらかという緊急提言よりは、33 期の次世代育成を中心にもう少し深掘りされたほうが、活動的にも広がりがあるのではと思う。</li> </ul> </li> <li>・次世代育成に焦点を当てて、どのような取組みかを聴くということもできるし、コロナ禍でどのように活動を再開してきたかを聞くのであれば、前回、話を伺ったところに聴くといいと思う。あるいはまたもう少し別の方向性もあると思うが、どちらも考えられる。</li> <li>・南区は喫煙・飲酒率、運動習慣のある人、健康診断受診率が市内ワースト 1 位であるが、CC 講座は誰が仕掛けたか。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→CC 講座は毎年、高校生に考えてもらうミッションを変えているが、今年度は南区の健康福祉課の担当者が白根公民館に話をして健康をミッションとした。</li> <li>CC 講座は、与えられたミッションに対する自分たちなりの解決策、提案を作り発表する講座であり、来年度から新たに、提案して終わるのではなく、実施するところまで公民館が伴走するようにやり方を変えている。3 月に発表するアイデア、解決策を来年度の 4 月から実際に南区で実施する。</li> </ul> </li> <li>・行政担当課や公民館、あるいは社会福祉協議会の職員とも連携していくことが必要と感じた。協議資料 2-1 に、ワークショップの参加は運営審議会委員など、とあるが、社会福祉協議会や行政職員にも参加してほしい。</li> <li>・みらいず works に社会教育を学んでいる大学生がインターンシップで多く来ている。社会教育への関心が大学生の中でもかなり高まっていると感じており、大学生や高校生など若い次世代の当事者をワークショップに呼ぶといいと感じた。</li> </ul> <p>4 事例研究</p> <p>○資料に基づき、教育総務課教育政策室から新潟市のコミュニティ・スクールについて説明を行いました。</p> <p>【主な質問・意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル校 12 校の 1 年目が終わり、何か課題が挙がっているか。また、地域が目指す子どもの姿と学校が目指す子どもの姿をイコールにするとあったが、モデル校でどのくらい時間がかかったか。三つ目に多様性の担保について、画一的な子どもの姿を一つだけ挙げられ、そこに行くのは恐いと思う。多様性の担保はどのようにしているか、教えてほしい。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→課題について今、回答を求めているところである。会長が話をまとめる学校もあれば、教育委員会と校長と一対一でやり取りしている学校が半分くらいある。校長もいて、会長もいて、話をまとめるのは会長という</li> </ul> </li> </ul>
--	--

	<p>スタイルができていないところが課題と感じている。</p> <p>→地域が目指す子どもの姿と学校が目指す子どもの姿をイコールにするために、ある学校では1年間、学校教育ビジョンについてやり取りを続けた。その中で子どもと地域の大人と一緒に話をし、大人が子どもに触れて、大人の考えをまとめていき、シェアリングしようという話を4回続けた。地域が目指す子どもの姿について聞くことはあまりなかったため、これが呼び水になり、地域が盛り返り、会自体が成熟して行くのではないかと思った。</p> <p>→多様性については、みんなというのは一人残らずで、そこは校長がすべて把握しており、地域にも説明できると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに雇用されるコミュニティ・スクール事務員が学校や地域に詳しくないと、接続がうまくいかないと思う。事務員が自治協等に関われるような機会があると、スムーズにつながりやすいのではないか。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→小学校長会でも、コミュニティ協議会の事務の方にしてもらったため、やりやすかったという発表があった。</li> </ul> </li> <li>・地域課題はあるが、地域の目標などは、特にあるわけではない。地域の人は頑張っているが、やらされている感がある気がする。もう少し積極的に関わってほしい。</li> <li>・学校の教育ビジョンを作るにあたり、子どもの意見は聞かないのか。学校は子どもを教育する場のため、教育の意図、ねらいなどがあり、それを子どもたちに頑張ろうというが、子どもたちがそれを望んでいるかどうかは議論されない。学校と地域の目標に子どもの思いは問わないのはどうなのか。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→子どもの思いや願いは外せないところであり、子どもの声を生かしていく手法もアイデアとして触れていきたい。</li> </ul> </li> <li>・地理的に学校が遠く、子どもの数も少ないため、学校の姿が見えにくい地域もある。地域と学校が共に同じ目標を掲げて進んでいくために、そのような地域にも理解を深めてもらうための手立てが必要ではないか。             <ul style="list-style-type: none"> <li>→学校を核にした地域づくりという側面もある。学校施設を利用して地域の人たちが顔を合わせるなどの活用方法について校長にも広げていきたい。</li> </ul> </li> </ul> <p>5 その他 ○第5回会議は5月20日（木）午後3時からクロスパルにいがたで開催の予定となりました。</p> <p>6 閉会</p>
傍聴者	0名
会議資料等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第34期新潟市社会教育委員会議（第4回）次第</li> <li>・報告資料1 第62回全国社会教育研究大会新潟大会 参加報告</li> <li>・報告資料2 令和2年度関東甲信越静社会教育委員連絡協議会第2回理事会（書面開催）報告</li> <li>・報告資料3 令和2年度新潟市成人式 開催報告</li> <li>・協議資料1 令和3年度社会教育関係団体補助金について [非公開]</li> <li>・協議資料2-1 第34期社会教育委員会議の研究テーマについて</li> <li>・協議資料2-2 第34期社会教育委員会議 スケジュール（案）</li> <li>・資料番号なし コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）</li> </ul>